

「株式会社小松製作所におけるQC検定の導入・活用のご紹介」

コマツ コマツウェイ総合研修センタ 教育企画部
(コマツ全社QC活動推進事務局)

垣内 リエ

1. 企業紹介

【企業名】株式会社 小松製作所

【本社所在地】東京都港区赤坂2 - 3 - 6

【会社概要】

創立 1921年(大正10年)5月13日

代表者：代表取締役社長(兼)CEO 野路 國夫(のじ くにょ)

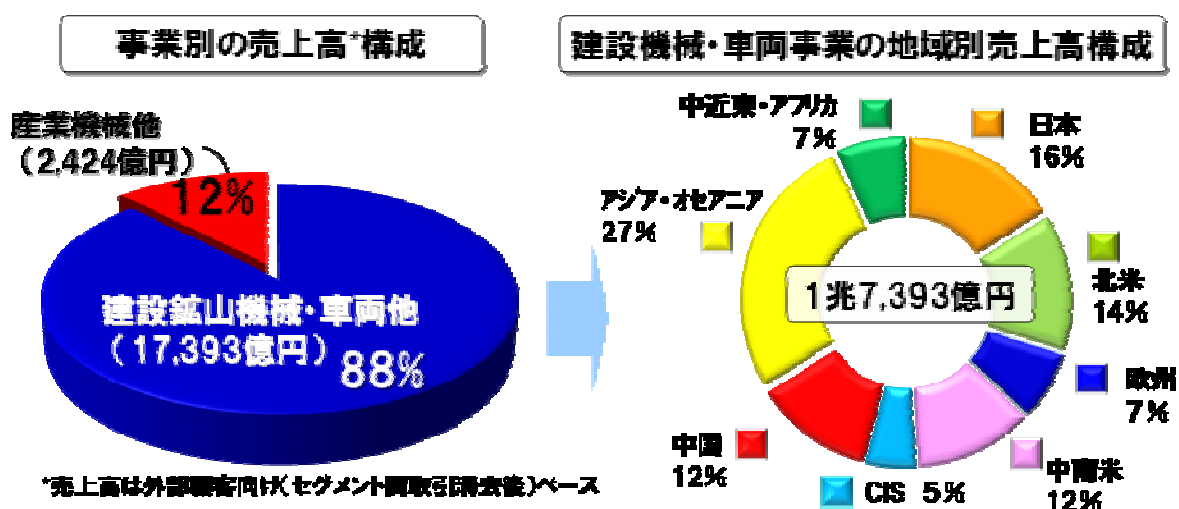
主な事業：コマツグループでは主に、建設・鉱山機械、ユーティリティ(小型機械)、
林業機械、産業機械などの事業を展開しています。

資本金：連結 678億70百万円(米国会計基準による) 単独 701億20百万円

売上高：(2012年3月期) 連結 1兆9,817億円

コマツグループは、コマツをふくむ179社(連結対象)で構成されています。

従業員の状況 [連結] 44,206名



【URL】 <http://www.komatsu.co.jp/>

【会社写真】



「こまつの杜（もり）」：石川県小松市

コマツウェイ総合研修センター（社員研修施設）と
わくわくコマツ館（一般開放された展示施設）が
あります。2011年に竣工しました。

テクニカルセンタ：大阪府枚方市

設計開発部門や事務管理部門の社員が勤務する事
務所です。2011年に竣工しました。

2. Q C 検定導入の経緯

コマツでは、コマツ社員としての心構え・行動規範をコマツウェイとしてまとめ、その実践活動の推進を図り、2006年からグループ社員への普及を図っています。

代々の先輩が成功と失敗の経験を通じて伝えてきた現場力、言い換えると、社員全員が日常活動で問題を発見し、改善していくという文化・環境が世代間で引き継がれてきたことがコマツの強さを支えていると考えています。この観点から、社員全員の考える力・改善能力を向上するために、品質管理の考え方や手法を身につけ、実践に活かしていくことを奨励しています。そして、2008年度から本格的にQ C 検定取得を奨励し、合格者には奨励品を贈呈するとともに、人事データに反映して評価につなげる仕組みを作っています。受験の申込みは個人で行っていましたが、昨年からの申込み者が急増したため、工場のQ C サークル推進事務局がとりまとめるようにしています。

3. Q C 検定取組の具体例

【対象者】社員全員（期間社員含む）

「全社お知らせ」の掲示板にQ C 検定の案内を載せて、取得を奨励しています。

【学習方法】基本的には各人が問題集などを買って自主学習を行いますが、職場や仲間内で集まり、受験対策の勉強会を開催しているケースもあります。その際の講師は、指導員やS Q C インストラクターなどが務めています。（弊社ではQ C サークル活動を支援するた

めに、事業所毎に世話人・指導員・推進員を任命しています。QCの考え方や手法に関する指導は、指導員が行います。また、社内でSQCの研修に参加して習得した人がSQCインストラクターとして社員の指導にあたっています。)

勉強会の例：ある工場の場合

◇QC検定への取組み 3級対象講座の開催

実施日	時間	内容
① 8/25(水)	17:00~	1章「品質管理の原則」 2章「品質管理実施法」
② 8/27(金)	17:15~	3章「品質保証と品質マネジメントシステム」 4章「問題解決と標準化」
③ 9/1(水)	17:00~	5章「品質管理の手法」 6章「サンプリングと検査」
④ 9/3(金)	17:00~	模擬テスト

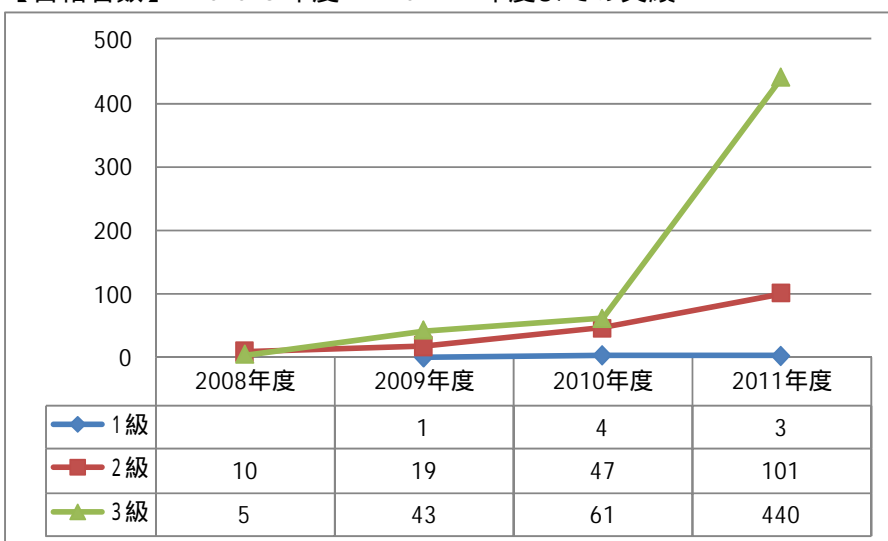


また、日本規格協会の「通信講座による品質管理入門コース」、日科技連の「通信教育品質管理基礎講座」などの通信講座を受講している人も多くいます。講座の教材はテキストが見やすく、内容が分かりやすいと好評です。

4. QC検定受験者の状況・実績

【受験者数】工場でのとりまとめ以外に、個人で申し込んでいる人も居るため、受験者総数については把握していません。

【合格者数】2008年度～2011年度までの実績



2008年以前も含めた累計合格者数：

1級 8名 2級 218名 3級 637名 4級 100名 合計 963名

【合格者の声】

『3級』合格者の声

・QCサークル女性若手メンバー

「QC検定3級合格 今後もQCについての勉強を積み重ねます！」

今までQC活動がどういう目的で行われているのかわからない状態でQCサークルに参加していました。このままわからない状態でQCサークルに参加するのはサークルの人達にも失礼だし、自分の為にもならないと思いました。そんな時、班長からQC検定を受験してみないかと言われ、これだ！と思い、受験する事を決めました。工場でQC検定教育を行うという事だったので参加し、教育で教わった事を何度も復習しました。その結果、3級に合格する事ができました。今後はQCについての勉強を積み重ね、これからの仕事に役立てていきたいと思っています。

『2級』合格者の声

・QCサークル事務局（インドネシア人社員）

「ちゃんと勉強しないと受からない！」

普段も品質やQCについて仕事しているので、申込みの時は「受験する前に過去問題に目を通したら受かる」と軽視していました。しかし、同僚が読んでいるQC対策の本を見てもみると、そこには分からない問題ばかりで、ちゃんと勉強しないと受からないと自覚しました。いくつかの対策の本を買って、家で勉強しましたが、それでも分からない日本語があり、解き方が分からない部分もありました。そんな時、会社の勉強会に参加して他の人の意見や説明を聞くのはとても勉強になりました。仕事でQCをやっているもやはり言葉の違いなどがあるので、勉強は必須だと思います。合格という連絡が来たときは半信半疑でしたが、嬉しかったです。

・入社すぐの若手スタッフ

「先輩方と自主勉強会を行うことで、合格できました！次は1級！」

検査のスタッフという仕事を始めてまだまだ経験の浅い私ですが、部署の先輩方と品質管理検定を受験することになりました。勉強を始めた当初は統計的解析手法、実験計画法といった内容が自分の知識とかけ離れているため、一人で勉強してもなかなか頭に入らないものでした。しかし、社内で催された研修や、同じように悩んでいた先輩方と自主勉強

会を行うことで、徐々に理解を深めていけました。また、これらの勉強会を通じて先輩方とQCに関する話し合いをする機会ができたことも、個人的にプラスになった点です。自分自身まだまだ未熟であるので、合格したということに慢心することなく、学んだ内容をこれからの仕事に活かしていくことが重要だと思います。

5. QC検定に期待すること

QC検定にチャレンジすることで、品質管理について理解を深め、職場での品質に対する意識を高めてもらいたいと思います。また、得た知識を日常業務に活かし、現状を分析して、各職場の問題・課題はどこにあるのか、何が問題・課題なのかを発見できるようになっていただきたい。そして、改善能力をレベルアップし、達成感を体験して、モチベーションアップにつなげてほしいと考えています。

6. 学校（学生、生徒）に期待すること

コマツにとって製品やサービスの「品質と信頼性」がどれほど重要なのか、新入社員が本当に理解できるまでには時間がかかります。もし入社時に既に品質管理に関する知識があるならば、品質の重要性を早く理解し、自分の業務に関する理解も深まることが期待されます。

また近年、統計やQCストーリーを学校教育に取り入れる動きがありますが、是非とも学生時代に論理的思考や問題解決能力の基礎を固めてほしいと思います。

弊社の入社希望者のエントリーシートには、TOEICの取得点数の記入欄に加えて、QC検定の取得級の記入欄を設けており、品質管理の考え方・手法を修得することを奨励しています。

以上